

2018年1月21日

## 福音書からのメッセージ

イエスは、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われた。

(マルコによる福音書1章17節)

イエス様は、ガリラヤ湖のほとりで漁をしている人たちを見つけます。そして彼らに声をかけます。ペトロとアンデレ、そしてヤコブとヨハネという二組のきょうだいの物語です。

彼ら四人は漁師でした。漁師にとって、舟は必需品でした。彼らの耳に、イエス様のうわさは伝わっていたのでしょうか。聖書によると、イエス様は奇跡を起こしたり説教をしたりなどという活動は、まだ何もしていません。つまり彼らは、「イエス様というすごい人がいる」、「彼こそは救い主だ」といった思いを持たずに、イエス様に会っているのです。

わたしたちは聖書を通して、イエス様は救い主だと思っているからこの出来事にそれほど違和感がないかもしれません。しかし、実際はどうだったのでしょうか。漁師はそれぞれ日常の仕事をしていました。そこにイエス様は突然やって来たのです。見ず知らずの30過ぎの男性が突然「ついて来い」と呼びかけたのです。みなさんだったらどうするのでしょうか。

四人の漁師にとって、「わたしについて来なさい」という言葉は、自分の舟を捨てるということです。舟を手放すと、彼らは生きていくことができなかつたでしょう。家族を養うことすらできないのです。でもその舟を捨てて、わたしについて来なさいというのが、イエス様の招きなのです。舟を捨てたらこんなにかいことがあるとか、こういう未来が待っていると、イエス様は何も言いません。ただ一言、「人間をとる漁師にしよう」という言葉を除いては。

人間をとる漁師とは、人々をイエス様の



元に招く人のことです。イエス様が何をするのか、また、何をしたのか。

同じ道を歩む中で体験し、感じ、そしてイエス様に倣うのです。イエス様がなさったように行い、イエス様が生きたように歩むのです。

すぐに網を捨てて従う彼らの姿は、周りから見たら滑稽です。しかし彼らについて行きました。ただその声に従いました。それがイエス様の召命なのです。

わたしたちも、イエス様に声をかけられています。どのようにかけられるのか、それは一人一人違うでしょう。しかし確かに「わたしについて来なさい」とイエス様は招き続けておられます。その招きに応じることは、傍から見たら馬鹿げたことに思えるかもしれませんが。しかしイエス様が共にいてくださいます。そのことがどんな苦しみも、悲しみも、乗り越えさせてくれるのです。

そしてわたしたちもイエス様の弟子として、孤独で苦しく、救いを求めている人に伝えたいと思います。「イエス様が呼んでいるよ」と。イエス様が必ず一緒にいてくれるから、大丈夫。イエス様は共にいてくださいます。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>